

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

平成31年度病害虫発生予察注意報第2号を発表したので送付します。

平成31年度病害虫発生予察注意報第2号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)
- 3 発生地域 宮古群島、八重山群島

4 注意報発令の根拠

- (1) 宮古島および伊良部島、多良間島における11月中旬の調査結果は、それぞれ新植夏植ほ場の芯枯茎率は4.7%(前年2.3%、平年1.7%、平年よりやや多)(図1)、8.0%(前年4.3%、平年3.3%、平年よりやや多)、13.2%(平年値なし)であった。芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫の88.9%がカンシャシクイハマキであった。宮古島および伊良部島、多良間島における、11月の合成性フェロモントラップ誘殺虫数(虫数/トラップ/日)は、それぞれ1.2頭(前年9.3頭、平年18.2頭)、33.9頭(前年36.9頭、平年10.9頭)、14.4頭(前年33.8頭、例年18.9頭)であった。
- (2) 石垣島における11月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場の芯枯茎率は2.3%(前年0.5%、平年0.6%、平年よりやや多)であった(図2)。芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫の54%がカンシャシクイハマキであった。石垣島における、11月の合成性フェロモントラップ誘殺虫数(虫数/トラップ/日)は、2.6頭(前年3.2頭、平年2.6頭)であった。
また、波照間島における病害虫防除員による調査の結果、メイチュウ類の発生程度は多発生であった。

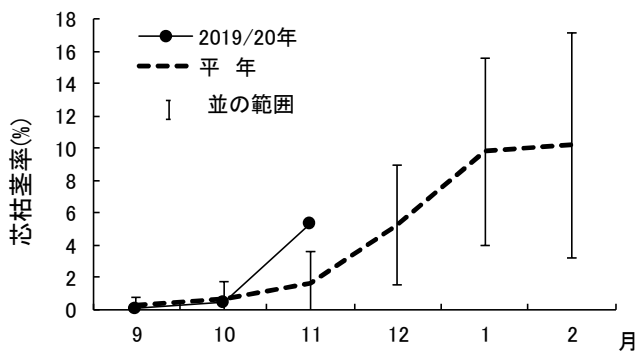


図1 宮古島におけるメイチュウ類の発生推移

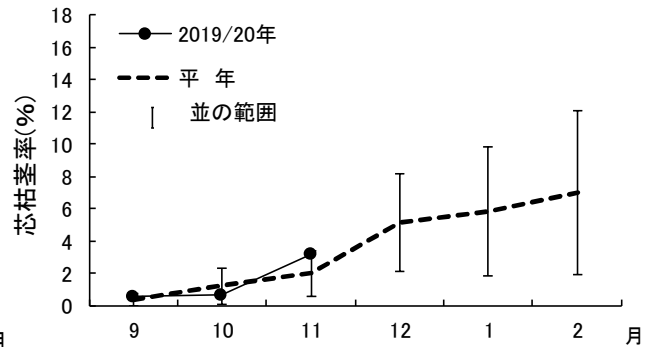


図2 石垣島におけるメイチュウ類の発生推移

5 発生生態および被害

- (1) 本県では年6～7世代を重ね、周年発生する。
- (2) 卵は葉の付け根や茎などに1～数卵ずつ産み付けられ、1頭の生涯産卵数は200～500卵に達する。
- (3) ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し生長点を加害し芯枯れを起こす(図3, 4)。
- (4) 被害はほ場に散在的に発生する。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場及び周辺の除草を徹底する。
- (2) 発芽揃期から有効分げつ期の芯枯れ防止をねらい、培土時に食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- (3) 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (4) 薬剤防除後、2～3週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (5) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。



図3 カンシャシンクイハマキ幼虫



図4 芯枯茎